

1 はじめに

本校では、学校教育目標に学校名の頭文字である「な・め・つ」を用いて「なかよく思いやりのある子、めあてをもって学ぶ子、つよくたくましい子」と掲げており、子ども達にも先生方にも地域の方々からも親しみやすい教育目標となっている。そのため、学校全体がどのような子ども達を育成していけばよいかが明確である。私は、この教育目標を軸に、子ども達のために何を目指し、どのように取り組んでいくべきかを考え、全職員が足並みをそろえて「より良い学校づくり」ができるよう以下の実践に取り組んだ。

2 実践の内容・方法

(1) 「な」なかよく思いやりのある子の育成にむけての取り組み

本校では、学校全体で大切にしている4つの柱がある。生徒指導をする中で「あいさつ、そろえる、聞く姿勢（放送が鳴ったら立ち止まって聞く）、人を傷つけない 力でも言葉でも」ができる児童が育つように取り組んできた。実現するためには、全職員の協力と理解が必要である。本校の強みは、この全職員が同じ方向を向いて、子ども達に関わっているということである。

「チームNAME TSU」の発行
による教職員の意識の統一化

教育目標「な・め・つ」

校長「グランドデザイン」

生徒指導部の取り組み

児童・職員全体の取り組み

なかよく思いやりのある子

親切・丁寧・思いやりの姿

そろえる姿

丁寧な姿

あいさつ運動

小さな親切運動の実施



また、生徒指導の会議の中で改善が必要なこと（児童や学校全体の困り感）は、必ず生徒指導だより「TEAM NAME TSU」を発行する中で取り上げ、教職員全体が児童との関わりの中で意識して取り組んでいくことができるように共通理解を図ってきた。児童の良さ、丁寧さ、思いやりの姿については、積極的に取り上げ生徒指導だよりで提示したり、全校集会の中で紹介したりすることで、子ども達一人一人を学校全体で見えていく、育てていくという学校全体としての意識につながってきている。



① 学校全体 5 つの取り組みについて

国語科の研究テーマをもとに、個人の日々の実践の取り組みの積み重ねが確かな学力に結びついている。

◇ 1 年次【5 年国語 物語文】「なまえつけてよ」「カレーライス」

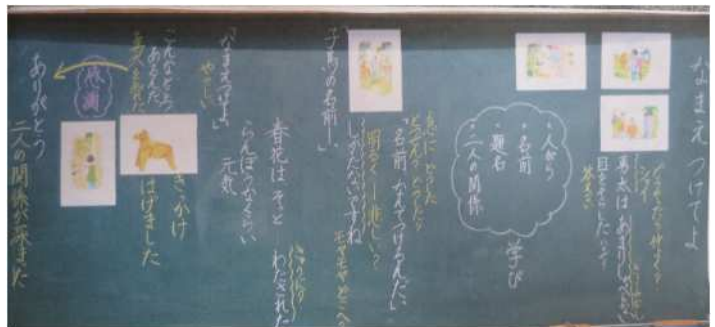
「なまえつけてよ」 物語を読む基盤づくり 「物語を読むときに大切なのは？」

- ①初発の感想で「？」問いをもつ
- ②物語の設定を読む
- ③中心人物はどこで変わったのか。

変容→中心人物の成長

人物像、関係図、題名との関連

物語の読み方を習得できる子



「カレーライス」 読書の幅を広げる 「本って楽しいね。」

- ①単元の見通しをもつ。
- ②単元の中で身に付ける力を提示する。
- ③読書環境整える。【図書館司書との連携】



いろいろなジャンルの本を読むことで
読書の幅を広げることができる子

◇ 2 年次【6 年国語 説明文】「笑うから楽しい 時計の時間と心の時間」「鳥獣戯画を読む」

「笑うから楽しい」 説明文を読むときに大切なのは？

- ① 単元の見通し（身に付ける力の提示）
- ② 文章構成、筆者の考えに対する納得度
- ③ 筆者の考えを支える事例
- ④ プレ教材で学んだ力で本教材を読む

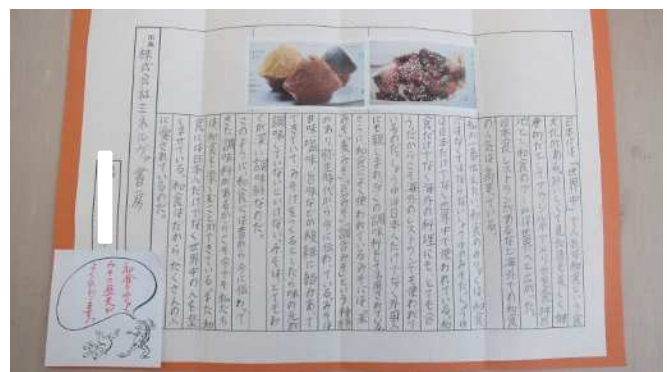
身に付けた学びを生かして読める子

「鳥獣戯画を読む」 説明文を読み、書く力へ生かす。

- ① 単元のゴールは何なのかを提示する。
- ② 筆者の考えに対する自分の考えをもつ。
- ③ 情報の適切な選択（写真や図の活用）
- ④ 文章と情報の関連性

読みで身に付けた論法で、日本文化を紹介できる子

「鳥獣戯画を読む」→「発見、日本文化のみりよく」



(3) 「つ」 つよくたくましい子の育成にむけての取り組み

充実した学校生活を送ることができるようにするためには、学級経営が基盤となる。つよい心を育て、たくましい最高学年を育てていくために、4つの「創る」を目指して取り組んだ。

滑津小学校の最高学年「頂上」めざす



つよくたくましい子

① 創る 滑津小学校150周年の歩みをふり返ろう 「式典に向けてスライド作成」

- (1) 桜の植樹式
- (2) 地域の方へのインタビュー、調査
- (3) スライドへまとめる

自己表現の場の実現



② 創る 滑津小学校の歴史をふり返ろう

「学習発表会～nametsu history～」

- (1) 歴史をみつめる
- (2) 台本作成

クラス全体で一つを表現する場の実現

③ 創る 卒業する自分をふり返ろう

「成長した自分を見つめよう～卒業文集作成」

再度自分を見つめ直す場の実現

④ 創る 最終形 自分たちの心に残る卒業式を創ろう

最終形とはどんな姿か再構築する場の実現

- (1) 卒業プロジェクト案作成
- (2) プロジェクト実施（交流、感謝、つなぐ、絆）チームごとにプロジェクトを実施する。

3 子どもの学びの姿と今後に向けて

2年間をとおして、実践してきた授業改善や教育目標のもと、教職員一丸となってより良い学校づくりを目指していくという学校全体の取り組みから、学習面においても生活面においても落ち着いた環境の中で子ども達は学校生活を送ることができている。現在の6年生においては、昨年度のHQUテストの実施から今年度の実態を比較してみると、一人一人の学校生活の充実度が向上していることが分かる。

昨年度 11月

満足群	・・・	89	%
侵害行為認知群	・・・	6	%
非承認群	・・・	6	%
不満足群	・・・	0	%



今年度 11月

満足群	・・・	100	%
侵害行為認知群	・・・	0	%
非承認群	・・・	0	%
不満足群	・・・	0	%

このことから、学校全体としての学年を越えた、子ども達への関わりや全体で同じ方向性で取り組む姿勢が、児童の安心感へつながり、自信をもって自己表現をすることができていると考えられる。

また、滑津スタンダードを研修部で作成し、授業基盤を整え、めざす児童の姿に向かって研修を行い、授業改善を行ってきた。その結果が、子ども達の全国学力学習状況調査で、国語科、算数科ともに、全国を10ポイント上回る結果につながった。今後も教育目標の実現をめざし、教職員一人一人、前向きに子どもの姿から学ぼうとする姿勢を大切にしながら、日々の実践に努めていきたい。